

会議結果報告書（要旨）

1 日時	令和5年5月16日（火）13時30分～14時10分
2 場所	大津市役所新館7階特別会議室
3 名称	令和5年度第1回地方独立行政法人市立大津市民病院評価委員会
4 出席者	■相手方（五十音順） 出席：尾形委員、小椋委員、角野委員、重永委員 ■当方 佐藤市長、杉江副市长 事務局（健康保険部） 市民病院関係者
5 配布資料	■当日資料 令和5年度第1回評価委員会資料

結果概要

- 1つの議事について審議を行った。

主な意見、指摘事項等は次のとおり。

議題1：公立病院経営強化ガイドラインに沿った認可中期計画（第2期）の一部変更について

- ・ 資料1を基に説明。

委員長「ただいま事務局から説明がありました。これにつきまして、委員の皆さん、御意見等がございましたらよろしくお願いします。」

委員「病院にとって、喫緊の課題は働き方改革への対応です。来年4月から、医師の働き方改革も待たなしで、国が定めたルールに従うということになっていますが、大津市民病院の現状とそれに対する具体的取組について教えていただければと思います。」

市民病院「令和4年度の医師の時間外勤務の状況につきましては、国が定めるA標準、年間960時間を超えた医師は1名です。また、月60時間以上80時間未満の職員は12名という状況です。それ以外は、月60時間未満といった状況で、時間外勤務はほかの病院に比べてかなり少ない状況です。

働き方改革の取組の状況は、まず一つは、医師の労働時間短縮計画を平成4年10月に策定しました。これはB基準、C基準に該当するところは必須ですが、大津市民病院はA基準でいこうと考えており、職員に徹底をしているところでございます。

その他の取組としましては、医師から他職種へのタスクシフトを進めています。具体的には、看護師や医療技術職への業務の移行に取り組んでいます。令和3年10月から法改正により業務拡大がされた職種への対応として医療技術職へ業務が移行できるようになっているので、研修会をほとんどの医療技術職の職員が受けており、順次移行しているところです。こういったことから、実際の時間外勤務と働き方改革、タスクシフトの取り組みを組み合わせ、A基準でいけるのはほぼ間違いないという状況です。」

委員「時間外勤務が年間960時間を超えた医師1名は、市民病院内の時間外勤務ですか。」

市民病院「市民病院の正規職員ですが、令和5年3月末で退職しました。」

委員「タスクシフトについて、市民病院の場合、看護師の特定行為研修があり、それをできるだけ取得して、医師の業務を移行することになりますが、今何人ぐらいおられますか。」

市民病院「6名です。」

委員「今後、特定行為研修を受講し、医師の業務を移行する看護師を増やす計画はありますか。」

市民病院「認定看護師も、中期計画に記載する分野については、拡大する計画を立てています。併せて、特定看護師研修についても、研修内に組み込まれていることから、そういった領域で両方ともとっていくような計画を立てています。」

委員「琵琶湖大橋病院においても、滋賀医科大学で研修を受講し、2名資格取得したところです。病院として、資格取得を後押しするために、資格取得したことにより、本人も今まで以上に仕事をやるように感じるし、病院にとっても患者さんにとっても非常にメリットがあります。職員が資格を取得したいと思うような方策を考え、取り組んでいただければいいのかなと思います。」

委員長「様々な資格を取得した人が資格取得者として責任を持って仕事をさせてもらえてないことが多いです。これは、かつてはICNの県立大学の方から要請があって、県内でもかなりの方が研修を受講され、資格を取得されました。しかし、今は、ほとんどの資格取得された方がおられなくなりました。なぜかという、折角、資格取得したのに病院内で発揮する場がない、一定の権限が与えられていない、自分が提案しても採用されないため、やる気をなくして異動したという人が結構おられました。これからは、こういった方々を大事にしていくべきだと思います。

時間外勤務が少ないというのは、非常勤の医師に助けられている部分もあると思いますが、今後も非常勤の医師が確保できているという前提でしょうか。」

市民病院「角野委員長お述べのとおり、非常勤の医師を含めた状況です。今後は、可能な限り常勤で対応できるように医師の派遣元と相談しながら一定数の医師を確保したいと思っています。」

委員「琵琶湖大橋病院の当直医については、ほぼ大学からの医師にお願いしています。宿日直基準を取得しないと大学から派遣いただけない。市民病院は、問題ないでしょうか。」

市民病院「救急診療の日直・当直は、外部から来ていただいています。今後、院内の医師でカバーできるよう検討していく予定です。」

委員「14ページの一部変更案について、『市民病院の後方支援を担う病院及び救急搬送に関する消防局との連携をさらに強化する。』と記載がありますが、この2つは別の内容かと思います。具体的にどうのことを考えておられるのか教えていただきたいと思います。

それから、意見として、22ページの「医師の働き方改革への対応等」の①「現行の制度下において可能な領域で医師の業務を他の職種に移管する。」ということはその通りですが、もう少し具体的に丁寧に記載したほうがいいのかという気がしました。例えば、医師の業務といっても、少なくとも、医療行為の一部をタスクシフトする話と事務作業のような医師でなくてもできるものを移管する、いわゆる、医療秘書等の話とはちょっと違うと思います。特に、前者の医療行為のタスクシフトということになると、実際には、看護職を中心とするほかの医療職の業務ということになるのだと思います。先ほどもお話が出ていたように、例えば、タスクシフトを進めていくためには、特定看護師などの研修を進めていくということが書いてあったのですが、それはその通りだと思うのですが、それと併せて、やはり看護業務の効率化が必要だと思います。つまり看護師からほかの職種へ業務をシフトすることをしないと、医師からのタスクシフトもできない。そのあたりを書き方等は任せますが、ちょっと工夫していただけないかというのが私の意見です。」

市民病院「おっしゃる通り、『市民病院の後方支援を担う病院』と『消防局』というところは目的が少し違います。後方支援を担う病院は、周りに六つ七つぐらありますので、そこと密に連絡をとりながら、急性期が終わったらそちらの方に送らせていただくような、病院訪問を含めて、密接に今のところ連絡を取っていているという形になります。それから、消防局とは救急搬送について、市民病院が診られる患者を搬送いただける、患者さんのためにも近くにお住いの患者さんを搬送していただけるように、症例の細かい内容も含めて連携して情報を共有する努力をしています。それを強化するということがこの文章の趣旨です。」

委員「わかりました。後方支援というと、例えば、病院が診療所を後方支援するというイメージだったので、これはむしろ退院した方の受け皿という言い方はよくないですが、そういう趣旨ですね。」

市民病院「そういうことです。」

委員「わかりました。」

市民病院「22ページに関しましては、おっしゃる通り、もう少し具体的に御説明しますと、タスクシフトに関しましては、看護師が医師の代わりをする、それから看護師の代わりを事務補助員がする、そういうようなところを念頭に置いています。例えば、具体的に言いますと、オペ室では最近内視鏡の腹腔鏡手術が多いのですが、今までは全てカメラを持つ術者・助手、全員医師がやっていたのですが、カメラを持つ役割を看護師がし、放射線科では読影の補助を放射線技師の方に教育したり、またエコー室ではどこの病院でもやられておられると思うのですが、技師にエコーをどんどん広げていったりするタスクシフトを進めています。事務的なことに関しては、外来で看護師が事務的な作業をしているところを事務補助員に任せて、看護師の業務をできるだけ削減して、看護師は少なくして済むようにしていくことを目標に頑張っていますが、事務補助員の人数の確保が難しい状態だったので、今後は増やしていきたいと思っています。」

委員「ありがとうございました。わかりました。1点補足ですが、これは前にも申し上げたと思いますが、看護業務の効率化に関しては、今、国の事業で看護業務の効率化推進事業が行われており、今年が5年目で最後になるはずですが、各地でどんなことが行われているかというのは、日本看護協会のホームページを御覧になるといろいろ面白い事例が出ていますので、是非参考にされるといいと思います。」

委員長「尾形委員、22ページはもう少し具体的であった方がよいことで、今の御説明は非常に具体的であったのですが、それをそのまま書くわけにいかないの、文言としては、これでよろしいですか。」

委員「了解しました。」

委員「大津市医師会としても私個人としても、もう謝ることはやめたほうがいいと思います。というのは、現場で診察させてもらっていると、市民病院どうになりましたかとか、最近どうですかと聞かれなくなりました。市民の皆さんが、前のことを忘れておられるというのは変な言い方ですけど、心配されてないのです。こちらが言うと、逆に寝た子を起こすみたいな形になってしまうのではないかなというふうに、私の患者さんに対しては思いました。最初の頃は全員から聞かれました。それを丁寧に答えして大丈夫ですよ、大丈夫ですとずっと言っていたのですけれども、本当に最近そういうことは聞かれなくなりましたし、大津市医師会の会員も例会でも理事会でもそういう話が出なくなりました。先生方は、安心して紹介をしてくださっていると思っております。件数はわかりませんが思っております。これは、理事長、院長が一生懸命、学区や地域を回られて、説明に回られて、それも患者さんからも聞いておりますし、大変丁寧な説明があったということも聞いております。やはり、それが、実を結んできているのではないかなというふうに感じております。行かれてないところは是非続けていただけたらありがたいなというふうに思いますし、医師会に対してもお越しいただいて、また丁寧に説明をしていただけたらありがたいなというふうに思います。

今日は女性医師のチラシを作ってくださいましたけれど、外科医が最初4人であったのが7人になります。ちょっとずつ増えてきていますし、外科の体制は私が元外科医であったということもありますが、気にはなっていました。それがこのように増えてきているのは大変ありがたいことです。

実は、ゴールデンウィーク前、水曜日に夜診をしているのですが、80代の女性がお越しになり、左の鼠径部が腫れていますということで気になるので来しました。別にその症状が特に強い症状があったわけではないのですが、女性であることと高齢であることで、普通の鼠径ヘルニアより大腿ヘルニアを疑いましたので、検査を勧めたところ、市民病院を希望されました。それでは市民病院の外科に紹介しますというお話をさせてもらいました。ただ、本人がすぐには行けないとおっしゃいましたので、月曜日に行けるように手順を踏んでやりますのでということで、水曜日の夜にお越しになって、金曜日の夜に紹介状を渡して、月曜日に受診をしていただくように、手立てをしました。木曜日の午前中にファックスで予約をさせていただいて、それに紹介状をつけて送りました。そして、予約をとって紹介状のファックスも送ったのですけれど、金曜日の午前中に大住診療部長からお電話をいただきまして、実は、この患者さんはほかの科にもかかっておられましたと市民病院にかかっておりますので、大腿ヘルニアを疑われるのであれば、早く診させて欲しいということで、もう患者さんと連絡を取りましたとおっしゃいました。勝手なことですみませんと謝っておられましたけれど、患者さんの御希望で月曜日ということで緊急性がないと思ったので、そういうことにしました。金曜日に患者さんが呼ばれて行かれて、その場で術前の検査をされて、月曜日に手術されたということです。月曜日に手術が終わったことを家族の方がお礼を言いに来られました。市民病院に紹介していただいたこと、手術が無事に終わったことを、すごく丁寧にいただいたことをお礼に来られました。大変うれしかったですしありがとうございました。そのあとももちろん手術記録も添付していただきましたし、後々も丁寧に対応していただきました。こういったやる気、細やかな対応、こういう1例1例をしっかり見ていくことが、大事ではないかと思いました。私がこのようなことを経験しましたので、一生懸命やったださっていると思いますけれど、徐々に患者さんから広がっていくのではないかなというように感じました。人数が増えたことも含めまして、やる気を感じておりますし、多分こういう話をまた私が医師会ですると、紹介も増えるのではないかなというふうに思っておますので、どうぞよろしく願います。」

委員長「ありがとうございました。いい話がいっぱいあるはずなのですが、誰も言わないのですよね。県のやっていることに対しても、誰も言ってくれないのですよね。おそらく、佐藤市長も一緒だと思います。」

市民病院「折角お褒めいただきましたので、今の件で少し補足の説明をしますと、最近、日野院長が繰り返し、コミュニケーションをしっかりと取りなさいと、職員に伝えています。今おっしゃられたように、疑問を持ったらすぐに電話して、御紹介いただいた先生方にお聞きするとか、そういうコミュニケーションが非常に大事であると伝えていますので、その成果が少しは現れたのかなと感じております。」

市民病院「たくさん職員がおりますので、やはり全員に教育が行き届かないのは当たり前といえば当たり前です。トラブルはどうしても生じますし、クレームも実際あります。それはある程度仕方がないので、クレームが来たときにはすぐに対応することが非常に大事だと思っておりますので、もし、そういうことがございましたら、直接電話いただけたら、すぐに対応いたします。よろしく願います。」

委員長「ありがとうございました。ほかに御意見ございませんでしょうか。では、意見も出尽くしたようでございます。このガイドラインに沿って変更していただいたということで、多少わかりにくいところもあるようですが、これでどうかということなのですが委員の皆さんこれで了承してよろしいでしょうか。では、事務局案を了承いたします。それでは、本日の議題は以上となります。委員の皆様には円滑な進行に御協力いただきありがとうございます。」